

院外処方せんに記載されている検査値一覧

(成人基準値：2018年10月1日現在)

略語	検査値項目	基準値	単位	項目の説明
WBC	白血球数	33~86	10 <sup>2</sup> /μL	血液の成分の一つで、異物の侵入に対抗して体を守る働きをしています。少ない場合は、体の防御反応が低下して、病気にかかりやすいことを意味しています。白血球数の増減を知ること、体の状態を把握したり病気の推定に役立ちます。
Hgb	ヘモグロビン	男性：13.7~16.8 女性：11.6~14.8	g/dL	体のさまざまな細胞へ酸素を運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運び出す働きをしている赤血球の中で中心的役割を担っているのがヘモグロビンです。貧血や多血症の診断などに用いられます。
PLT	血小板	15.8~34.8	10 <sup>4</sup> /μL	血液の成分の一つで、血管に傷が出来ると直ちにふたをして血を止める働きをしています。血小板の数が減少したり、その機能が低下すると血が止まりにくくなります。
好中球	好中球数	-	/μL	血液の成分の一つで、異物の侵入に対抗して体を守る働きをしています。少ない場合は、体の防御反応が低下して、病気にかかりやすいことを意味しています。好中球数の増減を知ること、体の状態を把握したり病気の推定に役立ちます。
PT-INR	プロトロンビン時間 (標準比)	-		血液の凝固異常を調べる検査です。ワーファリン治療時に薬の量を調節するために測定します。
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13~33	IU/L	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	8~42	IU/L	肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気で高くなります。肝臓細胞の障害を敏感に反映しています。
T-Bil	総ビリルビン	0.2~1.2	mg/dL	胆汁色素で、主に肝臓・胆道の障害で高くなり、黄疸の指標になります。
CK	クレアチンキナーゼ	男性：62~287 女性：45~163	IU/L	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。心筋梗塞などの心臓病や筋肉の病気で高くなります。
Alb	アルブミン	3.9~4.9	g/dL	肝臓で作られた全身の栄養状態の指標となる蛋白質で、肝臓の病気や腎臓の機能の低下で低くなります。
Na	ナトリウム	138~145	meq/L	体内の水分調節の状態をみます。腎臓の病気やホルモン異常、脱水などで高くなったり、低くなったりします。
K	カリウム	3.6~4.8	meq/L	
Ca	カルシウム	8.6~10.1	mg/dL	骨の病気やさまざまな内分泌の病気で変動します。また、心臓や血管の働きにも重要な役割を果たします。
Mg	マグネシウム	1.8~2.3	mg/dL	酵素の働きやエネルギー代謝に重要です。カルシウムとともに心臓や血管の働きをつかさどる大切な物質です。
s-Crea	血清クレアチニン	男性：0.53~1.02 女性：0.43~0.72	mg/dL	運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてできた物質で腎臓から排泄されます。腎臓の機能をみています。
eGFR	推算糸球体濾過値	-	mL/min/1.73m <sup>2</sup>	腎臓にどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示しており、この値が低いほど腎臓の働きが悪いということになります。
CRP	C-反応性蛋白	0.3以下	mg/dL	体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。炎症のほか心筋梗塞などでも高くなります。
HbA1c (NGSP)	グルコヘモグロビンA1c	4.6~6.2	%	過去1~2カ月の平均的な血糖値を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病での血糖値の管理に有用です。